

農業従事者への即効性のある支援と、今後の農業の発展に対する農業

従事者への指導について / 津田隆

現在、本村の多くの農家は後期高齢者が中心となっております。後継者の確保もままならない状況です。基幹作物においても、農業生産は低迷し続けており、離農や意欲喪失が見られます。その一方で、離農された方の土地を引き継ぎ、面積を拡大し、営農に取り組まれている方もおられます。

水管理などの協力により、一定の結果が見えはじめていることはたいへんありがたく、貴重な事例と受け止めております。

しかしながら、農業の収入の実態や高齢者への支援体制など、農業を取り巻く課題は山積みです。放置された耕作放棄地の拡大が現実のものとなりつつあり、田畑、ビニールハウスなどが手つかずのまま放置され、これからの地域の農業と暮らしに深刻な影響を及ぼしています。

このような状況に、農業再生はスピード感が必要であると強く感じています。そして当面のつなぎ期間における即効的な対策として、前回は化学肥料の無償化を実現していただきたいという要望を申し上げました。対策が講じられなければ、耕作放棄地の更なる拡大を招きかねません。この対策は農業支援にとどまらず、私は村の土地と人の命を守る地域防衛策と捉えています。村の農地が荒廃すれば、環境、食の安全、私たちの暮らしの基盤が揺らぎます。これは広い意味で国の安全策やSDGsの実現に関わることです。

そこでお尋ねします。高齢化が進む本村において、化学肥料の無償化を実施することについて、どのように受けておられますか。お願いします。

■議長（金城信光） 伊礼直樹農林水産課長。

休憩します。

再開いたします。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の一般質問にお答えします。まず、化学肥料の無料提供ということですが、伊平屋村の土壌は有機物が乏しく、地力が低い地域です。地力を上げるためには、有機物を使用することで土壌中の微生物活動が活性化し向上することから、化学肥料では今後の土壌の問題解決とはなりません。あくまでも短期的なものとしかなりません。

一番の課題は、粘土含量が多く固くなりやすい土壌のため、根の伸長が抑えられ、作物の生育が悪化していることが反収に結びついていることを踏まえて、振動破砕で柔らかくする必要があることから、プラソイラ（耕盤層の破砕と同時に下層土を表層に持ち上げ攪拌する）、サブソイラ（土をあまり動かさずに耕盤層のみを破砕する）を使用した機具代に補助を行うなど、農林水産業の奨励を図るため、個人及び団体が農林水産業の生産向上に役立つ有用な機具、施設、資材を購入した場合に、その経費に対し予算の範囲内において補助金を交付する要綱の整備を検討しているところです。

現在、他の市町村の要綱も参考にしながら、伊平屋村の財政事情を踏まえて、今後についてはその内容を吟味し、充当する予算の確保も含めて要綱等、そういった補助について進めていきたいと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 前回も、50年間の低迷した反収とかいろいろあつての、高齢化という現状。去年は水出した結果、やっぱり反収が上がって、目に見えてサトウキビ伸びているなというのが僕の実感でした。即効性があるという点で、サトウキビに少しでも化学肥料を出すなどすれば、農家さんの意識が上がっていくんじゃないかなと。また、持続していくために、若い世代に向けた対策をやらないと、みんな

な後期高齢者ですから、例えば今の計画が 5 年かかるとしたら、ほとんどいません。

それを心配しているわけです。そうすると耕作放棄地がどんどん増えていくと。

だから少しでも反収が上がるように、やる気が出るようにと思って、即効性のある化学肥料を要望したわけです。課長がおっしゃったのは事実です、確かに。それは継続してやらなければいけない一番の課題です。だけどそのあいだに、少しでも農家さんの気持ちが^{たかぶ}昂ったり、続けていこうという意欲、それもまた若い人たちに継続していく体制を作らないと、どんな良い計画を立てても、終わった時に後継者がいなかったり、耕作放棄地が増えたら、また同じことを繰り返すんじゃないかなという心配はあります。

だから今「いかに農業者を育てていくかというのも並行してやらないと、成り立っていないんじゃないかな」というのが、私の考えです。だからぜひ、農家さんに寄り添って、化学肥料とかじゃなくても、気持ちが昂ったり、一日でも早く反収を上げる対策が必要、それが足りなかったら足りるように、国の補助とかいろいろ使ったり、援助して知恵を貸して、一緒に取り組むことができたなら一番いいんじゃないかなと思って、この質問と、一番最初の文言を言ったわけです。

だから課長が答弁したのは間違いでもなければ、行政側が考えていることだと思うんです。僕は農業したことはないんだけど畑とかいっぱい回って、農家さんから意見を聞いたりすると、だんだん苦しみが分かってきて、もうちょっとコミュニケーションもとれて、平気で意見を言いあえて、農業がスムーズにできたらなと思っています。

さっき言ったように、野菜などの農業はゼロなんですよ。玉ねぎ農家さんが一人か二人。ほとんど小規模で頑張っています。本人にも聞いたら、国の援助とか少

しあったからできた。ちょっとした機械を買ったり、それでうまくいっているという話も聞きました。だからやっぱり、そうやって寄り添ってくれるところがあればできる。今までは寄り添っても水が届かなかったりとかあって、去年頑張った分、本当に目に見えて結果が出てきているし、そこに化学肥料とかやってサトウキビが少しでも伸びれば、これ、タダでやるわけじゃないから、化学肥料をやればその分サトウキビは伸びた。

伸びた分収入になるわけですからね。ただお金をあげるのとは、意味が違うと思うんです。

僕は先ほど、これを防衛策と言ったんだけど、自分たちで土地を守らないといかん。そういう状況にきていると思うんですよ。だから必死になって頑張ってやってもらいたいというのが、今日の要望です。できたら、少しでも即効性のある対策につなげたいので、化学肥料のことも考えてもらいたいと思っています。またこれに代わるものが、あるのであれば、そこで寄り添ってくれたらもっと助かると思います。ぜひお願いします。

2番目が収益性の高い農業とか、これにも関連してるけど、今後、サトウキビだけ目指すのか、又は、収益性の高い農業に転換していくのか。ビニールハウスとかが放置されたり、課題は山積しているんですけども、それも同時に、収益性の高いものを、このハウスを活かしたり、マンゴーとかも手をつけられていないところもあります。

これから収益性の高い農業に転換していく、もしくは導入とか多様化の促進とかの計画や企画はありますか。

■議長（金城信光） 答弁、農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員のご質問にお答えします。まず、伊平屋村では農業の後継者不足や耕作放棄地の増加などの現状を踏まえ、地域が抱える人と農地

の課題を解決し、活力のある農業、農村を実現するため、今後の地域農業の在り方の方向性を示すことを目的として『伊平屋村長期営農計画』の策定を2か年程度で行う計画があります。

これまでの取り組みを整理するとともに、本村の農業、農村の現状と課題を洗い出し、長期営農計画の基礎資料となることを目的とし、また、長期計画の検討をするにあたっては、本村の営農に関連する各機関で構成させる伊平屋村長期営農計画作成検討委員会を設立し、課題解決に向けた取り組みについて、今後協議していきたいと思います。それを踏まえて今後の伊平屋村の方向性を示していければと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 計画されたことを聞いたんで、早急にどうか頑張っていたきたいと心から思います。よろしくをお願いします。